

□主な内容

【第 10 回アジア EST 地域フォーラムの結果】

環境省は、国際連合地域開発センター、ラオス人民民主共和国公共事業運輸省とともに、第 10 回アジア EST 地域フォーラムをラオス人民民主共和国・ヴィエンチャンにて開催しました。

<http://www.env.go.jp/press/103819.html>

【第 12 回日本モビリティ・マネジメント会議の開催】

一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)は、7 月 28 日(金)と 29 日(土)に福岡市(アクロス福岡)において、第 12 回日本モビリティ・マネジメント会議を開催します。

<http://www.jcomm.or.jp/>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 128 回)

●「自転車は車道へ～歩道通行はゆがんだ日本の交通習慣～」

【岩手県立大学名誉教授 元田 良孝】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 128 回)

●「近鉄グループの環境取組みについて」

【近鉄グループホールディングス株式会社 総務部 主査 中谷 仁史】

3. ニュース／トピック

●第 34 回「エコルールマーク」の認定について【国土交通省】

●ダブル連結トラック実験の実験参加者の追加について【国土交通省】

●第 10 回アジア EST 地域フォーラムの結果について【環境省】

●自動車関連団体との COOL CHOICE 連携施策について【環境省】

●「COOL CHOICE できるだけ一回で受け取りませんかキャンペーン～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～」キックオフイベントの開催について【環境省】

●只見町における超小型モビリティの認定について【東北運輸局】

●日進市の「地域公共交通再編実施計画」の認定書の交付について【中部運輸局】

●地域公共交通優良団体の表彰について【九州運輸局】

●交通実践セミナーの実施状況について【中国運輸局】

●京北ふるさとバスの運行ダイヤ等の見直しについて【京都市】

- チョイモビヨコハマについて【横浜市】
- 平成 29 年度 JCOMM 賞候補募集について【日本モビリティ・マネジメント会議】
- ワイヤレス急速充電装置を用いた EV バスについて【株式会社東芝】
- 世田谷代田駅の「小田急環境ルーム」の開設について【小田急電鉄株式会社】
- 交通部門のエネルギーシフトを進めるイニシアティブについて【ドイツ連邦経済エネルギー省】

4. イベント情報

- 2017 年度第 1 回自転車活用研究会【2017/4/7】
- CO2 削減ポテンシャル診断事業セミナー【2017/4/12】
- エコトレーニング【2017/5/28】
- エコライフ・フェア 2017【2017/6/3、6/4】
- 第 12 回日本モビリティ・マネジメント会議【2017/7/28、7/29】
- 第 24 回 ITS 世界会議モントリオール 2017【2017/10/29～11/2】
- 第 15 回 ITS シンポジウム 2017【2017/12/7、12/8】
- エコプロダクツ 2017【2017/12/7～12/9】

5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 128 回)

●「自転車は車道へ～歩道通行はゆがんだ日本の交通習慣～」

【岩手県立大学名誉教授 元田良孝】

環境によい持続可能な交通といえば、人によってイメージは違うかもしれませんが、まず思い浮かべるのは自転車だと思います。自転車は環境に負荷を与えず、運動により健康増進にも結びつき、経済的だといふことだらけのように思えます。ところが日本では困った問題があり、手放して喜べないのです。

皆さんは自転車はどこを走りますか。おそらく大半の方は歩道と答えるでしょう。ところが自転車で歩道を走るのは日本くらいで、大多数の国では車道を走ります。その歩道で何が起きているのでしょうか。

歩行者との衝突です。特に高齢者や障害者など、モビリティの低い人は自転車を避けることができずぶつかります。2016 年に視覚障害者の調査をしたことがありますが、多くの方が歩道上で自転車とぶつかって、大切な白杖を折られたり怪我したりしていますが、殆どがひき逃げです。「とにかく自転車は怖いです」とおっしゃっていました。自転車が増えればこうした問題は拡大し続け、社会の嫌われ者にもなりかねません。

一方自転車に乗っている人は、車道は危険だから歩道を走るといいます。これは正しいのでしょうか。自転車の歩道上での事故を調べると、何と事故の相手の 8 割は自動車なのです。その理由は多くの自動車が歩道を横断して沿道の施設と出入りしているからです。歩道を走る自転車は自動車から見えにくく、出会い頭事故を起こすのです。いつも歩道を自転車で走っている方は歩道なのに危険だと思った経験があるのではないのでしょうか。警視庁が 2013～2015 年に環七で行った調査によれば自転車に関して歩道は安全性を向上させる効果ないことが明らかになっています。自転車の歩道通行は無駄な上にはた迷惑な行動なのです。

日本は交通戦争といわれた 1970 年に緊急的措置で自動車と自転車を分離するため歩道を走らせる制度をつくりました。以来歩道は実質自転車道になってしまいました。しかしこれは歩道本来の姿と違う歩行者無視のゆがめられた交通制度・習慣です。

そうはいつでも 40 年以上も歩道を走る習慣のある利用者いきなり車道を走れといってもアレルギーがあるでしょう。しかし少々のチャレンジ精神で車道を走れば案外安全で快適だということに気がつくはずで。歩行者を避けながらの狭くて視界の悪く、路面が平坦でない歩道は自転車の走行空間として不適です。反面車道の自転車は車から見えるのでかえって安全で快適です。歩道しか走れないという人も是非車道にチャレンジしてください。ルールを守っていれば車道は危険ではありません。そうすることが交通弱者の安全と安心を守るとともに日本の自転車の未来を拓いてゆくのだと思います。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 128 回)

●「近鉄グループの環境取組みについて」

【近鉄グループホールディングス株式会社 総務部 主査 中谷 仁史】

近鉄グループは、近畿日本鉄道(株)を中心に、不動産、ホテル、百貨店、レジャー等様々な事業を営んでおり、親会社(当社)主導で画一的な共通環境目標を導入すると、各社の実態にあわない点や、当事者意識が低くなる点が懸念されました。そこで、各社の自主的な環境取組みを促すために、各社ごとに「CSR 推進者」を選任し、当社および連結子会社の計 58 社がそれぞれ「環境重点項目」を実施することを「近鉄グループ中期環境目標(2015 年度～2020 年度)」の項目の一つとし、2020 年度の 100%実施を目指しています。「環境重点項目」とは、「①環境目標の策定 ②環境教育の実施 ③エネルギー使用量等の実績把握」です。まずは現状把握と、取り組みやすい目標から始め、将来的に「自社の事業に関連する、環境に配慮した活動」にステップアップを図ります。また、エネルギー使用量を 5 年間で 5%以上削減する数値目標も設定しています。

鉄道事業では、省エネ車両や LED、高効率の省エネ設備の導入を進め、エネルギーを削減するほか、桜の名所である奈良県吉野への観光特急「青の交響曲(シンフォニー)」を新たに運行し、地元産品を利用したスイーツや地酒の販売、線路沿いに1万本の植樹を実施する等、沿線自治体・住民と協力して地域活性化につとめています。

バス・タクシー事業では、交通エコロジー・モビリティ財団の「グリーン経営認証」を取得しており、10 年間維持した永年表彰を受けています。

環境情報開示では、世界的な CO2 削減調査である「CDP」への回答をはじめ、一般のお客様向けに「CSR レポート」を発行し、子ども向けには「きんてつ子どもクイズ」をホームページで公開するなど、わかりやすい情報開示を心がけています。また、日本最大級の水族館「海遊館」を運営し、生物多様性の保護や環境啓発に努めています。

不動産事業では、駅の上部に最先端の環境・省エネルギー・耐震技術を導入した日本一の高さのビル「あべのハルカス」を建設し、地域のシンボルとなっています。

今後も引き続き、環境取組みを進め、沿線価値の向上に努め、地域社会に貢献することが近鉄グループの使命です。このたびは「第 8 回 EST 交通環境大賞 環境大臣賞」を頂き、ありがとうございました。

3. ニュース／トピック

●第 34 回「エコレールマーク」の認定について【国土交通省】

国土交通省では、平成 29 年 3 月 2 日に第 34 回「エコレールマーク運営・審査委員会」を開催し、エコレールマークの認定商品として 18 件、認定企業として 2 件を新たに認定することを決定しました。エコレールマーク制度は、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している商品又は企業に対して、「エコレールマーク」の認定を行い、マークの表示によって消費者に判断基準を提供する制度です。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo01_hh_000111.html

●ダブル連結トラック実験の実験参加者の追加について【国土交通省】

国土交通省では、トラック輸送の省人化を促進し生産性向上を図るため、1 台で通常の大形トラック 2 台分の輸送が可能な「ダブル連結トラック」の導入を目指した実験について、新たに 2 つの実験参加者が追加されたことを発表しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000804.html

●第 10 回アジア EST 地域フォーラムの結果について【環境省】

環境省は、国際連合地域開発センター、ラオス人民民主共和国公共事業運輸省とともに、平成 29 年 3 月 14 日(火)～16 日(木)に、第 10 回アジア EST 地域フォーラムをラオス人民民主共和国・ヴィエンチャンにて開催しました。アジア EST 地域フォーラムは、アジア地域における環境的に持続可能な交通 (EST) の実現を目指して、我が国と国際連合地域開発センターが共同で設立した政府ハイレベルによる政策対話会合です。

<http://www.env.go.jp/press/103819.html>

●自動車関連団体との COOL CHOICE 連携施策について【環境省】

環境省では、「COOL CHOICE」のさらなる認知向上を図り、身近な生活のなかで、地球温暖化対策につながるアクションへの参加を呼びかけるため、「エコドライブ」を呼び掛けるポスターを作成し、JAF 支部・全国の自動車ディーラーの店頭・日本自動車工業会会員各社の事業所等で掲出することを発表しました。

<http://www.env.go.jp/press/103718.html>

●「COOL CHOICE できるだけ一回で受け取りませんかキャンペーン～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～」キックオフイベントの開催について【環境省】

環境省は、「COOL CHOICE できるだけ一回で受け取りませんかキャンペーン～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～」キックオフイベントを 3 月 29 日(水)に開催します。

<http://www.env.go.jp/press/103849.html>

●只見町における超小型モビリティの認定について【東北運輸局】

東北運輸局では、農作業の電動化による作業軽減の検証や観光事業への活用と自然保護意識醸成のシンボルとして超小型モビリティを導入する、ユネスコエコパークに登録された只見町に対して、町内を運行する超小型モビリティ3台の認定を行いました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/puresu/puresu/jg170314.pdf>

●日進市の「地域公共交通再編実施計画」の認定書の交付について【中部運輸局】

中部運輸局では、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、日進市地域公共交通再編実施計画を平成29年3月9日付けで認定しました。全国でも稀なコミュニティバスから民間路線バスへの転換事例となります。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/kousei20170314.pdf>

●地域公共交通優良団体の表彰について【九州運輸局】

九州運輸局では、地域公共交通に関する優れた取組を行い、他の模範となる個人・団体の表彰制度を本年度創設し、今回初めて表彰を行いました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/2017-0307-0855-4-koutukikaku.htm>

●交通実践セミナーの実施状況について【中国運輸局】

中国運輸局では、地方公共団体の交通、まちづくり担当者や交通事業者の方々を対象に、開催した「交通実践セミナーin 広島」の実施状況を取りまとめました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/seminor20161107.html>

●京北ふるさとバスの運行ダイヤ等の見直しについて【京都市】

京都市では、「持続可能で利用しやすい『地域が育む』京北の公共交通の実現」に向けて、京北ふるさとバスの運行を見直す社会実験の経過を踏まえ、高校生向け利用促進、京北病院への立寄り、ふるさとバスとスクールバスの一本化、小塩線と灰屋線の本線化等の見直しを行います。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000215911.html>

●チョイモビヨコハマについて【横浜市】

横浜市は、平成25年から実施している超小型モビリティを活用した実証実験「チョイモビヨコハマ」について、3月17日(金)から新たにラウンドトリップ型カーシェアリング実験を開始しました。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/ondan/ysm/choimobi.html>

●平成 29 年度 JCOMM 賞候補募集について【日本モビリティ・マネジメント会議】

日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)では、国内の様々な MM についての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究を選定し、その実現に貢献した個人(複数可)あるいは団体(複数可)を表彰する「平成 29 年度 JCOMM 賞」の募集を開始しました。〔募集締切:4 月 7 日(金)〕

http://www.jcomm.or.jp/award/award_29.html

●ワイヤレス急速充電装置を用いた EV バスについて【株式会社東芝】

株式会社東芝は、EV バス向けのワイヤレス急速充電装置を用いて、2 台の EV バスを公道で運行し、ディーゼル車と比較して約 60%の CO2 削減効果があることを実証しました。本実証は、環境省委託事業「CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」において、ワイヤレス充電の利便性や CO2 削減効果の検証を目的に 2016 年 2 月から 2017 年 1 月にかけて実施されたものです。

http://www.toshiba.co.jp/about/press/2017_03/pr_j1702.htm

●世田谷代田駅の「小田急環境ルーム」の開設について【小田急電鉄株式会社】

小田急電鉄株式会社は、世田谷代田駅の地上駅舎完成に合わせ、同駅コンコース内に「小田急環境ルーム」を開設しました。小田急電鉄株式会社の環境負荷低減と自然共生の取り組みや、世田谷代田駅の環境に配慮した取り組み等が展示されます。

http://www.odakyu.jp/program/info/data.info/8563_7032775_.pdf

●交通部門のエネルギーシフトを進めるイニシアティブについて【ドイツ連邦経済エネルギー省】

ドイツ連邦経済エネルギー省は、交通部門におけるエネルギーシフトを促進することを目的としたイニシアティブを開始することを公表しました。今後 3 年間にわたり 1 億 3000 万ユーロを拠出し、投資プロジェクトの研究開発を通じた相乗効果を促進するとしています。

<http://www.bmwi.de/Redaktion/DE/Pressemitteilungen/2017/20170227-startschuss-fuer-foerderinitiative-energiewende-im-verkehr.html>

4. イベント情報

●2017 年度第 1 回自転車活用研究会

日時:2017 年 4 月 7 日(金)18:30~20:30

場所:ライフ・クリエーション・スペース OVE 南青山

主催:自転車活用推進研究会

<http://cyclists.jp/seminar/20170407.html>

●CO2 削減ポテンシャル診断事業セミナー

日時:2017 年 4 月 12 日(水)13:00~14:30

場所:一般社団法人エコファーム推進機構 1F セミナールーム

主催:一般社団法人エコファーム推進機構

<http://ecofa.or.jp/seminar/>

●エコトレーニング

日時:2017 年 5 月 28 日(日)13:00~17:00

場所:信州松本つかま自動車学校

主催:JAF 長野支部

http://jafevent.jp/event/1702_20_004_0.html

●エコライフ・フェア 2017

日時:(1 日目)2017 年 6 月 3 日(土)11:00~17:00

(2 日目)2017 年 6 月 4 日(日)10:00~17:00

場所:東京都渋谷区都立代々木公園

主催:環境省

<http://www.env.go.jp/press/103659.html>

●第 12 回日本モビリティ・マネジメント会議

日時:2017 年 7 月 28 日(金)、29 日(土)

場所:福岡県福岡市 アクロス福岡

主催:一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<http://www.jcomm.or.jp/>

●第 24 回 ITS 世界会議モントリオール 2017

日時:2017 年 10 月 29 日(日)～11 月 2 日(木)

場所:Le Palais des congres de Montreal

主催:ITS America / ITS Canada

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/montreal-2017/

●第 15 回 ITS シンポジウム 2017

日時:2017 年 12 月 7 日(木)～8 日(金)

場所:九州大学 伊都キャンパス 椎木講堂

主催:特定非営利活動法人 ITS Japan、九州大学

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/15th2017/

●エコプロダクツ 2017

日時:(1 日目)2017 年 12 月 7 日(木)10:00～18:00

(2 日目)2017 年 12 月 8 日(金)10:00～18:00

(3 日目)2017 年 12 月 9 日(土)10:00～17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2016/outline/000511.html>

5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>